

## 【所 感】

長崎市議会議員 山崎 猛

福州市友好都市提携35周年記念訪問団（水道技術交流団）ということで10年振りの中国の変化も楽しみで行ってきました。1日目は移動の1日、福州は遠かった！

### <2日目、福州市自来水有限公司訪問 西区浄水場>

ここは自来水有限公司が管轄する6浄水場の中で最も古くかつ最大規模の浄水場で1日の処理能力は60万 $\text{m}^3$ 、給水量45 $\text{m}^3$ 、給水人口100万人以上だそうで、その広さに驚きました。基本的には日本の浄水施設と同じ浄水工程および設備構成だそうです。原水は湖や沼、ダムからではないため原水の濁度が低くアオコ発生等、水質には留意していない感じではあったが毒性物質が混入した際の早期発見を目的とする「原水生物預警池」（魚類監視設備）が設置されていた。また360°監視可能なカメラもありセキュリティは行き届いていた。

原水と浄水を比べる所があったが、どちらも無味無臭で雨天のためか若干の濁りがあった。中央監視室は大型モニターで複数の監視カメラからの映像が同時表示され一目で場内の監視ができる。また市内給水区域内の管路の圧力、流量、配水池の水位が一望出来るシステムもあった。

自来水社屋での意見交換会では検針、料金徴収の制度についての説明。

設備の老朽化による漏水、料金未徴収の問題をどう解決しているのかの質問回答があった。また安心な水の供給、施設の安全を守るために監視カメラ、指紋認証による入退室管理も行われていた。有限公司は独立採算ではあるが国営でそのためか3人世帯1か月12~15 $\text{m}^3$ だと下水道代も含み日本円で800~1000円と安い。老朽管更新については長崎とほぼ同じ、ただ新設道路は5年間掘削が禁止されているとのことだった。

### <福建海峡環保集団股分有限公司 洋里污水处理場>

ここは福建海峡環保集団股分有限公司が管轄する5浄水場の中で最も大きく新しい污水处理場で1日60万 $\text{m}^3$ 、の処理能力を持っている（他は10万 $\text{m}^3$ 、）

\*長崎市の最も大きい処理場で1日5万 $\text{m}^3$

活性汚泥の分離は全処理量60 $\text{m}^3$ のうち40 $\text{m}^3$ が従来の最終沈殿池方式、残りの20 $\text{m}^3$ はろ過膜による膜分離活性汚泥法（MBR法）\*MBRは日本にもまだあまりない最新のものらしい

反応槽の上部は緑化されていて臭気対策として生物脱臭装置が設置されていてほとんど汚水臭気は感じられなかった。

ろ過後の処理水はかなり透明度が高く、濁度0.50とのことだった。

意見交換では専門的な活発な意見交換が見られた。污水处理業はかなり進んでいるが河川の汚濁に対する対策はこれからの課題だとも言われていた。

これだけの施設を低料金で維持管理するのは難しいのでは？やはり上下水道は営利目的ではないので国の資金が入っているようである。

働いている人に若い人が多いのにも驚いた。

### <3日目 福州市内視察 福州港江陰港区>

福州市福清市の江陰半島に位置する近代港湾地域。

国際物流区、加工貿易区、鉄道物流区、港湾集散区の4大機能区からなる「福州港江陰港区」コンテナふ頭が建設された。福州保税港区の計画総面積は9.26平方キロメートルに達する広大なところでした。

習近平主席が福建省出身ということもあってかこの地区の発展のために、台湾との貿易に力を入れているそうです。そのお蔭でマンション建設ラッシュ、地域の開発も盛んに行われていた。バブルの状態か？

福建省福清市漁溪鎮にある臨済宗発祥の地、日本黄檗宗の祖庭である黄檗山万福寺に行きました。長崎の興福寺とも関係の深い隠元禅師が住職をされていたお寺です。

「三坊七巷」坊は役人や文人などが多く住んでいた所で、巷は庶民が住んでいた下町のことで坊も巷も道を挟んで並ぶ狭い地域の呼名（地名）で明、清時代から現在まで続く街並みである。

### <4日目 上海事務所訪問>

現在の中国事情をお聞きした。一人っ子政策の廃止、教育費、食糧問題、エネルギー問題等のお話、前日11日の「独身の日」のネットショッピングのお話を聞きました。長崎魚市アンテナショップは10年目を迎えて輸出数量22トン、金額4200万から210トン75000万と凄い伸びをみせている。長崎ブランドも定着してきているそうである。上海最大の繁華街「南京路」、「豫園」、「外灘地区」を見学した。